

第5期 柳瀬川・空堀川流域連絡会 第6回 柳瀬川・空堀川流域連絡会（全体会）

議 事 録

日時：平成23年2月14日

於：北多摩北部建設事務所2階第1、2会議室



〔開 会〕
・事務局

それでは、定刻になりましたので、第5期の最後の全体会になります。これから開催したいと思います。

開会の前に、配布した資料の確認をしたいと思います。進行予定表、A4で一枚ですね。それから、御成橋周辺整備計画（仮称）。これが厚紙の資料でA4で一枚でございます。それから、これはA3を折りたたんでおりますけれども、活動報告、これが一枚A3でございます。それから、河川環境を考えた草本・木本維持管理ルール、これがA4で厚紙で一枚でございます。それと、あと第5期柳瀬川・空堀川流域連絡会活動概要、これがカラーのページでA4で一枚でございます。それとあと、第5回の全体会の議事概要、これがA4で4ページほどございます。それと、あと第6期空堀川流域連絡会の公募について、それから開催の予定について、A4で一枚でございます。それと、新河岸川流域しんぶん里川 No62 というのが、これがA4の冊子で一部でございます。配布した資料に不足があれば、委員長の方までお願いします。よろしいでしょうか。

それでは、これから第6回の全体会、開催したいと思います。開催にあたりまして、座長の方からご挨拶頂いて進行の方よろしくお願い致します。

○座長

皆さん、どうもこんにちは。第5期も今日で最後という事で、第6回。6回やってきたわけですが、この他に分科会等、たくさんやって頂きましてありがとうございます。どうやらまとめの分までたどり着いたというか、そういう感じでございます。それと、次第にもありますように、第6期の公募も行っている最中でございます。かなり多くの方の応募して頂いてありがとうございます。

それで、先日も、前回の時もお話したんですけど、空堀川と柳瀬川の合流点の近くでも、懇談会ということで、こちらにも何名かみえて頂いた方いらっしゃいますけれど、現場の視察を先週の木曜日にやりました。それで合流点の所というのは、非常に環境も良い所が残ってまして、河畔林等残っているという事で、ただそこに住んでる沿線の方というのですか。過去に水害も経験された方がいらっしゃいます。非常に厳しい議論というのですか、環境も大事だけど、治水の方もしっかりやってくださいよとか、そういう意見もありまして、非常に難しい問題だなという風を感じた所でございます。こちらの流連の方も、そういう意味では、色々皆さん考えて頂いて、ご意見をまとめて頂いたということもありますので、今日まとめをして、次期の流連の方に繋げたいと思いますので、よろしくお願いします。

それでは引き続き報告事項という事で3番目の方から入らせて頂きますけれど、まず初めに御成橋周辺整備計画（仮称）についてということで、A4の資料、一枚入っておりますけれど、こちらの方につきまして事務局の方からご報告お願いします。

・事務局

お手元の整備計画（仮称）、これをご覧頂きたいんですけども、これは前回、一応もうちょっと写りの悪い薄いページで渡したんですけども、前々回ですね、達磨坂橋の上流、床固め、ここも前々回の提案では御成橋の上流になっていたんですけども、せっかく湧水も活用するのだから、この位置までということで、達磨坂橋の上流に移しました。で、皆さんにご了解を得てですね、今回最終の改修にあたりましては、カラーのもう少し厚紙のペーパーで皆さんに報告しますということで、それをまとめたペーパーでございます。前回とは変わっておりません。これにつきましても、大分ほとんどこれに費やしたという事もありまして、ある程度整備計画の方向性は見えたと思っております。次回以降、第6期に入りまして、じゃあ具体的に何が出来るのか、行政として何が出来るのかも、そこら辺の意見交換がメインになるかと思っております。当然、できるものに関しては、事務局としても現地で具体的なものをつくっていきたいと考えています。整備計画については、前回と変わらないんですけど、ちょっと見せ方を変えたということでご報告させて頂きました。以上でございます。

○座長 どうもありがとうございます。今回は、背景の地図が、これには入っていませんでしたということでございますけれど、まあ前回と変わらないという事で、これはこれでよろしいでしょうか。後の方の報告、活動報告の中にも同じものは入ってますんで、また使う時にでも。それでは、これは整備計画として、この連絡会での報告事項というか、まとめにしたいと思います。それでは引き続きまして二つ目の河川環境を考えた草本・木本維持管理ルールについてということで、同じく A4 一枚の資料でございますか。そちらにつきましても事務局の方、よろしくお願いします。

・事務局 これにつきまして、前回、皆さんのご意見をまとめたものを皆さんにご周知したんですけども、内容的には変わっておりません。ただ、大分印刷の精度が落ちてまして、字が見にくいというお話がありましたので、背景の写真を若干薄めにしました。黒字をちょっと浮き上がらせるような格好にしまして、大分見やすくしました。これにつきましても、後半、さっきの整備計画と同じように、ほとんど時間を費やしてまとめた資料ですので、これに関しましても 6 期以降、ある程度、今度行政側の意見を入れて、より実効性の高いものにしていきたいという風に私は考えています。内容については、前回の内容と同じでございます。

○座長 こちらにつきましても、同じように活動報告の方でまとめてありますので、それでよろしいでしょうか。じゃあ、こちらの方、管理ルールにつきましても、この通りで報告させていただきます。次が第 5 期柳瀬川・空堀川流域連絡の活動報告についてということで、パンフレット状になっております資料につきまして、事務局の方よろしくお願いします。

・事務局 これについては、見開きの中ほどの内容を少し変えております。一番最初にあったのは少し字が小さくて見づらいというお話がありましたので、1 ポイント大きくして今回皆さんにお示ししています。表の内容につきましては、活動内容はいらんんじゃないかというお話もあったんですけども、他の人にも見てもらうということがありましたので、一応余白を利用して同じように入れております。

開いて頂きますと、ここが主に変えた所なんですけども、上に書いてある項目です。開催状況、活動内容、これは両分科会とも変えておりません。ただ下の内容につきましては、大分色々な情報が入っておって、煩雑で見にくいと。で、もう少し整備計画あるいは管理ルール、これを大きくした方が良いんじゃないかというご提案がありましたので、写真を少し削りまして、その分、整備計画、管理ルール、これを大きくして今回は皆様にご提案しております。整備計画につきましては、先ほど皆さんにお話ししました。それから管理ルールも皆さんにお話しした通り、かなり大きいサイズでありますので、委員の皆様にはこちらを活用して頂くという事で考えて、出来る限り、字が見える程度の大きさに加工しております。この分科会の活動については、訂正の内容はそこら辺でございます。内容自体は、誤字脱字あるいは開催日の動きがありましたので、そこら辺は直しておりますけども、基本的なまとめについては前回と変わりありません。

それから裏の議題・情報提供・報告、これにつきましても 1 ポイント字を大きくしまして、設置要綱なんかも見やすいようにちょっと字の配列を変えておりますけども、内容については変えておりません。

それから第 6 期の引継ぎ事項、これについても内容は変えておりません。今回皆様にご提示している所で変えた内容としまして大きい所は、字のポイント、それから余分な写真を削って、整備計画と維持管理ルール、これを少し大きくしたと。こういう内容になっています。以上でございます。

○座長 それでは今の報告のところで、活動報告についてご意見等ありますか。

・事務局 それでこの活動報告につきましては、第 5 期からになりますけども、各市役所さ

んに、広報の横にでも何部か置いて頂くように、各市さんに 100 部程増刷してお渡ししたいなと思っております。100 部全部置いちゃうとすぐ無くなるという事もありますので、2、30 部置いて頂いて無くなったら補充していく、ということでこの場を借りて市さんの方をお願いしたいので、よろしくお願いします。以上でございます。

○座長 こちらについては、まだ立派な紙になってるけど、印刷している訳ではないんですよ。ということで、色々今日意見を頂いて、直す所があればという。

・事務局 ただ、出来ればもう、「GO」をかけないと。それで、明らかに間違いということもあれば、訂正しますけれども、それ以外でしたら、今回初めて試みるので、次回以降第 6 期の活動報告もこういう格好になるかと思っておりますので、その時までにご意見を頂ければ良いと思っておりますけど。PR 不足だってことを言われてましたので、事務局の方でちょっと考えて入れてもらう事にしました。

○座長 そういう事務局の意思表示が、ありましたけれど、何かご意見あります？よろしいですか。

 では、そちらにつきましても提案通りいきたいと思えます。引き続きまして。

・事務局 活動の概要の。

○座長 じゃあ、議事録につきましては、前回と同じように見て頂いて何かあれば事務局の方に言って頂ければ、修正したものを事務局の方で保管しておくことにしようと思えます。よろしくお願いします。では、報告事項につきましては、これで。

・事務局 すみません、活動概要っていうのが私の方であるので。

○座長 すみません、じゃあ第 5 期の A4 一枚の活動概要の報告をお願いします。

・事務局 よろしいですか。活動概要は、この A4 のカラーのページ、ちょっとご覧頂きたいんですけども、5 期としましては、全部で 20 回ほど、全体会・分科会含めて開催しました。21 年度は全体会が 4 回、分科会が各 2 回ほど。22 年度につきましては、全体会 2 回と、それから各分科会が 1 回ずつと、あと合同でやった分科会、これが 6 回ほど。全部で 10 回ですか。5 期としては 18 回開催しております。21 年度につきましては全体会でメインでございました。第 1 回目から始まりまして、最後やったのが河川環境分科会。この内容につきましては現地調査からはじまって各分科会の「どんなテーマでやろうか」、こちら辺が 21 年度はメインになっております。

 22 年度につきましては、各分科会ごとに分かれまして、現地の見学ですね。それから各分科会ごとのテーマに沿って合同分科会がメインだったんですけども、意見交換を行いました。その結果、先ほど言った活動報告とか整備計画とか維持管理ルール、こちら辺が皆さんの意見集約ということでまとまって、今回皆さんにご報告したところであります。これにつきましては、活動報告の中にもざっと開催日時を書いておりますけども、この活動報告と一緒にですね、大体どんなことをやったのかということをもとめましたので、まあこんなこともあったなということで、過去どんなことをやったのかということを確認したい人もいるんじゃないかと思ひまして、事務局の方で簡単にまとめてみました。内容につきましては、紙面の関係上、全部もりこめないんですけども、一応こんなこともあったなということで、見ていただければ良いんじゃないかと思ひてまとめさせて頂きました。まあ、過去を見てもしょうがないんですけども、こんなこともあったなということで、見て頂ければ良いと思ひております。以上です。

○座長

はい、ありがとうございます。活動概要の中の、カッコして全体会って書いてあるの、体が「大きい」って字になってますけれど、これは、「体」の方の全体会です。パンフレットの方は直ってますか。直ってますね。ということで6か所ですか。すみません、1回から6回までの全大会の大を直して頂きたいと思います。

これにつきましてはご意見ございますでしょうか。よろしいですか。必要でしたら「大」を直したやつをお渡ししますので、帰りに言って頂ければと思います。

それでは、報告事項につきましては、これで終わらせて頂きまして、5番目の議事のその他の方に入りたいと思います。その他の一つ目で、第6期の柳瀬川・空堀川流域連絡会の公募についてということで、A4一枚の方、見て頂いて。それでは、事務局の人、お願いします。

・事務局

第6期の公募、2月8日までということで、皆さんにご案内しております。広報にも載せて頂きました。2月8日現在、応募総数20名ほどございます。ここでちょっと訂正して頂きたいのは、応募総数の中で東村山市4名になっておりますけれども、これが2名でございます。

これから、選考に入りますけれども、これは各市さん、それとあとうちの事務所の管理職員にやっていただくんですけども、選考期間としては2月下旬から3月上旬を考えております。委員に推薦されますと、こちらの方から委嘱状を3月中旬、皆様にご郵送します。なお、行政委員につきましては、3月、4月が異動の時期なので、全員残られるのが一番良いんですけど、中に異動される方もいらっしゃいますので、行政委員につきましては、異動が落ち着いた4月以降に委嘱状を送りたいと思っております。それで、前回もお話したんですけども、人数が増えると会議場の関係で、ある程度選んでいくんですけども、今現在20名という事であと何名かまだ郵送でこちらに届いてない人がいます。それ含めても大体24~25人なので、行政の事務局入れても大体運営可能かと思えます。ですから、こちらの方に作文を頂いた方は私の一存と言ってはおかしいんですけど、お出し頂ければ全員、委員としてお願いすること可能になるかと思えます。そこら辺につきましては、3月中旬、本人宛に郵送して確認すると思えますので、3月中旬までちょっとお待ち頂きたいと思えます。それと、あとここには多分いらっしゃらないと思えますけれども、郵送で作文を送ったんだけどまだ届いてないと言う人、何名かいるんですよ。で、先週分が殆ど届いてないんですね。結構、雪の関係もありまして、郵便が遅れているって可能性もあります。うちの方では、本来でしたら今日皆さんの作文をまとめて、選考委員の方に送ろうと思っていたんですけども、ちょっと1週間ほど待ちます。せっかく応募して頂いたのに、こちらの方でそれを切ってしまうわけにもいかないので、1週間ほどお待ちしてですね、ちょっと様子をみたいと思えます。だから先ほど応募総数20名から若干増えると思えます。ちょっとそこら辺はここでご了解頂きたいと思えます。

続いて、早い話なんですけど、第6期の開催の予定でございます。開催日は23年の5月中旬。前回の5期の時には5月13日ごろになっておったんですけども、中旬を目標に第1回、これを開催したいと思えます。場所としては北北建のこの会場になります。内容としては、これは事務局の提案なんですけども、1番から6番ほどございます。まあ、委員の紹介と、規約の承認、それから座長の選出、それから第5期の活動報告、これにつきましては、先ほどの活動報告、これをもって報告したいと思えます。それから、分科会の設置確認ということで、5期につきましては二つの分科会で進みました。ここら辺についても、新規の委員を交えて分科会の設置の確認をしたいなど。それから時間があれば、今後の進め方についても意見交換などをしたいと考えています。公募についてとそれから第6期の開催予定につきましては、以上でございます。

○座長

ありがとうございます。それでは、この公募と開催予定につきまして何かご意見等ございませんでしょうか。

△団体委員 質問よろしいですか。今、第6期が委員がまだ決まってないわけですが、仮に決まったとして、5月中旬の日程がいつ頃決まってお案内頂けるんですか？

・事務局 議会も終わるんで、そうすると課長も空くので、今月中くらいにご案内ってことでよろしいですかね。委員の決まるのが3月上旬なんで、それと合わせて送ろうかと思ってたんですよ。色々皆さん予定あるので、なるべく早い時期と考えておりますけど、委嘱状と一緒に前回は送ってみたいなんですよ。もしそれでよければ、3月上旬くらいには、ご案内を差し上げられると思っております。

△団体委員 わかりました。

○座長 それでは他に何かご意見、ございませんでしょうか。じゃあ、一応、主な報告事項等につきましては、終わりました、その他の所で最後に第5期柳瀬川・空堀川流域連絡会に参加してっていう所で、カッコで感想って書いてありますけど。

・事務局 その前に、流域しんぶん。これ〇〇さんどうしましょう？皆さんにお配りしたので何か。

△団体委員 これは、もう読んで頂ければ。

・事務局 そうですか。

△団体委員 それから雨水地下浸透ということで、分かりやすく総合治水、書いてありますので、お読みいただいて。ありがとうございます。

・事務局 それでよろしいですか。

△団体委員 はい。

○座長 この中に折り込んである漫画は、どっちから見ていいか分からない。右から左へ進むっていう。どっちからかなと思って。

・事務局 それは一回良く見て。

○座長 それでは、先ほど言いました第5期の連絡会に参加して感想ということなんですけど、この辺の主旨を事務局の人お願いします。

・事務局 まあ2年間やったんですけれども、私は途中の後半1年ということで、色々不手際等あってですね、皆さん色々ご立腹の所もございますけれども、5期の感想あるいは第6期に向けてこんなことをっていう提案を含めましてですね、2年間の簡単な感想をですね、頂ければ。私そういうの嫌だよ、っていう人もあればそれはそれで構わないんですけども、今後それを活かしていくということもございますので、率直にですね、感想を頂ければなと思って、私の方でちょっと提案してみました。まだ時間もありますので、大体一人1分から2分位で。率直な感想を頂ければということですね、うちの方でも今後の運営に活かせるので、どんな話でも結構なので、感想を頂ければなと思っております。じゃあ、座長の方から、分科会で偏っちゃうとまずいので、こういう交互にご意見、ご感想頂きたい思います。

○座長 〇〇さんからお願いします。

△団体委員 じゃあ、私が最初に。私、流域連絡会、最初からずっと通して来ているんですけ

ども、最近になって、ここ3期、4期、5期。5期ぐらいから流域連絡会で参加して皆、忙しい思いしたり、ボランティアを放ってきている人もいるし、それから仕事を調整して来ている人もいるので、ここでは何か一つでも二つでも成果を残そうと、残していこうと、そういう強い思いがあって、皆さん出て来ていると思うんです。私も、そういう風な皆さんの意見を聞いて、やっぱり何か流域として、やっぱり残るもの、それから皆がある程度満足するもの、そう皆が思えるくらい、やっぱり河川をつくるのがこちらの仕事ですけども、河川を作りながら、この数千億円を投じて作っている現代の川づくりがもっと環境にふさわしい、みんなが喜べる川にしていきたい。そういうために、何か自分たちの考えを少し川づくりに反映していきたいと、そういう想いで来ている人が大部分なんです。だから、その中でやっぱり具体的なものを残す、こういう事をしていかないと、やっぱりせつかく来ても、「電車賃使って、そして人が時間を割いてきて、それじゃあちょっと物足りない」はがゆい思いをして帰って行く人が大勢いられるとと思っているんです。こういうことのないようにしていきたい。みんなで、なんか川を整備して、そこの所に証をつくっていく、そういう事をしていきたい。前は、流域のマップを作った。マップに、今度は何か先進的なものを作っていく。そういう活動をしていって、作ったものは皆で守っていく。そして、そういう形でもって、この流域連絡会が地域に活用できるものにしていただけたいな、そういう風には思っているんです。特に、空堀川みたいな水のない所は、治水の事も非常に大切だと思います。思うけども、やっぱり普通、川ってのは水が流れている所であって、水の流れていない所に、一木一草あっちゃいけないとか、そういう管理の目的、これはどうしても馴染まない。やっぱり、河川敷は自然の状態、草が生えて、そしてある程度川には木が茂って、ある程度の河川環境というか、景観というか、そういうものを望んでいるんだろうなと思うんです。そのためには、やっぱりゴミ拾いみたいななんかやってきてるんで、その辺のどこか草についてもなんにしても、やっぱり刈る時期とか、そういうものがあるんじゃないか、そんな風に思って。これからは外来種の配慮とか、そのために時期とかそういうものを考えて河川管理をやって頂ければ良いなど。新しいルールみたいなものが、たたき台が出来たので、これに従って皆さんの意見を集約していただけるような次の会議にしたらいいかな、そんな風に思っています。

○座長 どうもありがとうございます。では、河川環境の方。

△団体委員 拙い河川環境のまとめ役で、すみません。私たちも1期から4期まで、殆ど机上の議論になったんですけど、その中で河川、柳瀬川・空堀川河川整備計画、これをみんなで策定致しました時には、いよいよこの河川整備計画に則って川が進むかなっていう大きな夢を持って、策定されました。それで、その後もまさに、今、清瀬の新しい合流点の所の、境橋の所の工事をして頂いてるんですけども、何億という工事費、1mの護岸をするのに1m、220万ですよ。ですから、真剣に川づくり、良い川にしていけた。そういう想いと、そして雨が降っても足が痛くても、一生懸命タクシー乗っても、委員になったからという方は、やっぱり本当にいい昔の川、両岸に水草のある良い川を見て来て、メダカの学校を見て来て、そういう川は、本当に変化してきて、汚い川になり、下水を背負う川になり、そして今度はまた良い川になり始めて、だんだんだんだん河川法も変わってきて、良い川になっていくのを楽しみに楽しみに杖をつきながらここへ通っていらっしゃる。で、自分たちが生きている間にどこまで良くなるだろうか。そういう楽しみを持って、ここへいらして、私もその一人なんですけれども。そんなわけで、ここへ参加させて頂きながら、自分が生ある間にどこまで河川が変わっていくのだろうか。河川の技術、それから河川の工事をする、なんて言うんでしょうか、機材、それも物凄い進歩しているように思います。ですから、これからいよいよ随分たくさんの次年度への環境部会、水循環部会、それぞれの申し送りのものが出来ておりますので、6期にはそこからまたすぐに活動が出来るんじゃないかという大きな楽しみと夢を持って、第5期が

終われるのは私は、良かったのかなと思う。しゃべっているうちに、協議しているうちに何か分らず生まれてくる、そんなものも感じます。ありがとうございました。

○座長 どうもありがとうございました。

△都民委員 いい加減で、あまり出席してないし、適当な事をやってきただけなんですけども、一つやっぱ楽しいなと思ったのは、適当な事言っても、どっかからこう反応があるっていう喜びです。一昨日ちょっと奈良橋川って、空堀川に合流する川の源流地点と思われる所。ぎっくり腰やってるんですけど、どうしても行きたくなって、見に行ったら、やっぱり雪が北側の方が残ってて、日当たりのいい方は溶けてて、やっぱり滴が落ちてるんですよ。あれ見て、「あ、いいな」この1滴から始まっているのかな。それが、多分、ずっと水が枯れないでいけば水を分子レベル、原子レベルまで落とせば全部繋がってるんだなと思いました。で、人間の体って水がほとんどですから、それに一つの物理的に言ってしまうえばフィルタですよ、エネルギーを取り込むために何か放り込んで、要らない物出して、出したやつもまた自然界に戻して、っていう。だから本当のミクロの世界まで持って行ってしまうと、ほぼ同じものがあるだけで、生きもの全体考えてみると、僕ら一番最後に出てきた新参者なんです。それと未来の人たちから見ればやっぱり、今あるこの時の時間、僕らがいる時をちょっと借りてて、とりあえずお借りしてて、で、それを渡していかなきゃいけない。そういう想いを最近するようになりました。話があまり上手くない。この、でも、場っていうのはすごい素敵ですよ。エネルギーだし。また来期、出したと思いますんで、多分。適当にやるでしょう。以上です。

○座長 はい、ありがとうございます。行政委員はどうします？

・事務局 行政委員は終わってから。

△団体委員 色々2年の間、勉強させて頂いて、大変有難いと思っています。また、もう少しなんとかならんかという部分もありまして、第6期、出来たら、また引き続き具体的な所で色々な意見交換が出来ればいいかなと思います。今日は感想という事ですから、振り返ってという事になりますけど、そういう意味で言いますと、水循環でありますとか、それから今日もらった総合治水、この「里川」の中で総合治水のことも出てきますけども、そういったものの具体化、それを良い川という形で、本当に具体化をするという事では、一步一步前進はしてると思いますけど、特に河川工事が今行われているような所で、できれば先取りをしつつ具体化してもらえれば、なお有難いなと。終わったところをどう整理するか、それはもちろん大事なんですけど。できればそんな風にも思っています。そういう意味では、東大和市内は、ちょうど今工事進んでますんで。これ今までの得たこの知見を活かす場でもあるという風に思いますんで、奈良橋川との合流点の所、あるいはそれから上流の蛇行した部分については、是非活かしてもらえればいいと思います。それから、総合治水という言葉について敢えて触れますと、本当に総合治水という形になってるのかどうか。これは前の全体会の時にもその発言はさせて頂きましたけれども、現実的にはなかなか、それが難しい現実にあるのかなという気もしています。やっぱり河川が、大方のところ、河川が負担をせざるを得ない、そんな状況に今あるんで。そういう意味では、真の総合治水、流域で全体の負担を、もう少し河川に頼らない格好で、負担を流域全体で負うようなそういう方向にうまく進めばいいかなというような感じを持っています。まあ、あまり長くなるといけませんので、感想としてはこの辺で終えさせて頂きます。

△都民委員 感想という事なのですが、まず私、もう耳がかなり遠くなってきたので、書類上

の文章がきちんとなされているのは、大変助かったと思うんです。ただし、前回もあったなという、書類がちょっと多いかなという、そんな気もしないでもないということですね。それから、あとは、もう少し何回か見学とか実地調査したんですけども、そういうチャンスがもう少しあったらいいなということを感じます。次回については、ここまでかなり御成橋も流域も案が具体的になったことは、喜ばしいことですので、もっと少しでも、少しずつでもやりかけた所があって、それを見学できたらなって希望します。大体そんなところですよ。

△都民委員 東大和市の〇〇です。何度この会議に出席させて頂いても、専門的な意見が提案できないというのがとっても恥ずかしく思います。それで、下流の清瀬の〇〇さん始め皆さん、それから東村山の〇〇さんをはじめ、皆さんの所が本当に多くの市民を巻き込んで、行政と協働に近い活動をなさっているの、それがとてもうらやましいし、これから今度、東大和市が中心になるわけだから、やっぱりそういう行政の方、それから市民の方たちを巻き込む活動にしていくことがとても重要なことなんだと思っております。先日、市内の何人かの仲間と高木橋から奈良橋川をずっと終りまで歩きまして、それから今度空堀川をずっと歩いたんです。そういたしましたら、奈良橋川は、本当にもう沿川を全然歩けない、ほんのちょっとこのくらいしか歩けなくて、あとみんな住居が迫ったりなんかしているので、これから奈良橋川も空堀川と一緒に一緒になるわけだから、とっても金銭的にも何も大変だなということをつくづく思いました。それから空堀川の方はやはり森永の水の無い所は、本当にもう三十何日も雨が降らなかったからもありますけれども、本当一滴の水もないし、水たまりも無かったので、ちょっとこれはどうしたらいいのかなというところをつくづく感じました。以上です。どうもありがとうございました。

△都民委員 私は、途中から参加させて頂いて、4年ぐらいになるんでしょうか。第5期の場合は、結構、御成橋の周辺の整備が整ってきたようなので、図面上だけかも知れませんが、これは実現したら本当に素晴らしいものになっていくと思うんです。それと、あと芝中の調節池なんかも、今工事中ですか、これは是非もとの調節池なんか残っていて、あそこもいい御成橋周辺と同じように良くなっていったらいいなと思っています。現地を何回か見学させて頂いて、とてもそのことを感じています。それから、御成橋の所で、雨水貯留施設ですか、これができることを私は本当に良かったと思っているんですけど、この貯留施設がもうちょっと広くって頂けたら、もっと良いんじゃないかなって思っています。それくらいです。来年度もよろしくお願いたします。

△都民委員 東大和市の〇〇です。私も3期か、5期から始めたと思うんですけど、少しずつ自分の住んでいる空堀川の河川敷とかが、人々が楽しめるような環境になってきたんだなと思います。植樹した木も随分大きくなって、植樹した木はきっと子ども達が結構いたずらかなんかしてしまうんじゃないかなんてと思ってましたけど、立派に育って、この春にはまた芽が出る、グリーンの若葉が出てくるんじゃないかなと楽しみにしております。それで、マップづくりもあって、空堀川を知らない人もやっぱりあのマップを見ると「ああ空堀川は、こういう風になっててこんな生きものもいるんだな」ということが周知できますし、だんだん市民の中にも広がってきて、良いことだなと思っています。やはり、毎年毎年少しずつ成果が見られているということは、やはりこの流域委員会で私たち、特に先輩方の専門的な知識とか意見がやっぱり行政に、行政をちょっと動かしているんじゃないかなと思いますし、また行政の方も、迅速に行動して頂くこともあるんじゃないかなと思いました。というのは、私の空堀川の所で以前に草を刈るときに木まで切ってしまうっていった直後に、その富士見緑地の所に、もしそういう草刈りや何かの問題があったらここに連絡するよという、そういう連絡先が書いた看板が見られたのは、私の勝手な見方ですけど、すごくほっとした気持ちでございました。これからも、また6期も

やらせて頂きたいと思いますのでよろしくお願いします。

○座長 どうもありがとうございました。

△都民委員 清瀬の〇〇です。何回か参加させて頂いたんですが、水涸れということで、すごいテーマで今まで全部はねかえされてきて、河床張りのもテストやってくれるかと思ったら、それも駄目でしたけど、まあそう簡単にいく問題ではないと思っておりますけど、やっぱりなんとか水を確保したいということで、なかなかこの問題は永遠の問題なのか分かりませんが、少しずつでもそれに目を向けていく必要があるんじゃないかと思えます。それから、各回、何回かやってるんですが、その都度その都度それでおしまいになってたんですが、今回は樹木の管理ルールとか、御成橋とか地域に、ということでですね、是非これを足がかりに次のステップにもう一つ進んで頂きたいという風に思っています。ただ私、空堀川の合流地点の委員会にも出てるんですが、まあ最初は半分けんか腰で出て来たような話になってるんですが、現地の住民、私もその場所に住んでるんですが、この非常に難しい問題で、行政の人も頭を痛める所だと思うんですけども、その中でも話し合いをしていかなきゃしょうがない。ただ、この御成橋の周辺でも、我々良いと思っても、周辺の人がどう考えるか、この辺はやっぱり十分注意して話し合いしていかなければ、何が飛び出してくるか分からないという風なことがあるかと思えますが、是非ひとつ6回目ではこのワンステップ先へ進めて頂きたい。こう思っています。

○座長 どうもありがとうございました。

△団体委員 私は、あまり川って当たり前みたいにあって、あまりそういう皆さんが関わっている事とか、こういう事をわかりませんでした。自分が参加してみて、まずいろいろ見学会して、柳瀬川から空堀川ずっと行って、見ているうちに、「ああ、川ってそうか、そうか」という感じで、親しみが湧いてきたっていう感じがしました。それで、この会でやっていて、空堀川が、今、工事をやってたんですね。やっぱり、そこに今、集中していて、動きは結構、空堀川のことをちょっと若干多かっただと思うんです。それで、次期で6期ですか、6期の時には空堀川の樹木のルールというのが出来つつありますよね、これ、案として。今度、空堀川と柳瀬川、またちょっと勝手が違うので、柳瀬川の方もまとめられたらいいかな、なんて思っています。うちの市界でも、清瀬市が柳瀬川回廊っていうもので、今作って、一応整備は出来ているんですけども、そこへもう少し河畔林みたいな川のそばの木、それか花の木がもう少し植わったら、もうちょっと潤いがあるんじゃないかなという、案も出ますので、そういった場合に、そのルールが出来ると進めやすいかな、なんていう気もします。それと、先ほど何度も出てますように、この御成橋周辺図のこれ（御成橋周辺整備計画（案））が、是非実現してほしいなと思います。というのは、清瀬市が作ったわけではないんですけども、金山橋の所で、土日になるとお子さん連れの家族がバーベキューとか色々やって、その時にお子さんが川に入って、結構遊んでるんですね。また、川祭りなんかの時には、やっぱり子ども達が本当に、生き生きとして川に入ってるので、ああいう姿を見てると、まあ柳瀬川の部分では、まあまあそういう機会があるので、空堀川のこれが、こういう施設ができたならば、またここでイベントがいっぱい行われたりすると、子ども達に、またその若いお母さんたち、お父さん達が川に親しむ機会が増えるんじゃないかと思って是非これ、できるかなとおっしゃってましたけど、少しでも良いですから実現できたらいいなと、来期、期待しております。今度、私、団体で出てるんですけど、次、この団体でもっと川に詳しい者が出てきますので、皆さんに是非託したいと思えます。2年間ありがとうございました。

○座長 どうもありがとうございました。それでは〇〇さん。

△都民委員 東村山市の〇〇と申します。4期、5期、この5年間をやって参りましたが、この4年間で今まで色々と連絡会と協議した滴（しずく）がどんどん空堀川の底に沈んじゃって何も中は残ってないなという実感があつたんですが、今回この先ほどのやつ、整備計画ですか、これを一つの滴（しずく）として、現在湿り気は残ってるかなと。これは、実際に現地の方で、形として残ることがなければならぬので、その第1歩を次の6期に託すわけですが、その第1歩がしっかりしていると、当然次の2歩、3歩という風に勢いが出て来ますので、是非行政の方、色々なお立場、あるいは、色々なご意見があるというような、お話をよく聞きますけども、しっかりと第1歩を築けるようにお力添え頂ければ、と思っています。それと、2、3週間前に東村山市の駅に新しくできたコミュニティーセンターで、観光立国東村山っていうようなことになってますが、そのシンポジウムに行つて来たんですけども、色々な東村山の話が出たんですが、空堀川に関しては全くその場で出なかったんです。ということは、その観光を売り込もうと、活動している人たちに全く意識がないのか、存在感ないのか、無関心なのかもしれないけど、関心持っていないなということは、要するに観光で見せられる川じゃないんだなというような実感をしたんですけども。やはりあいつの方々にも我々のやっている事柄に関して、コミュニケーションをとることが大切で、連絡会でやってることの波及をもっとしていかないと。今回、市役所の方に活動報告を置いて頂けるということですけども、それだけじゃなかなか波及しないと思いますので、やはり、色々な他の活動やってる人たちの委員会と連携をするということが、各市ごと、あるいは各自自治体あるいは、そんなこともやっっていくことによって、市民全体が河川に馴染むという風になりますので、計画的に、今までの流れをベースに、これからはこの活動が波及するような流れを作つて頂ければと思っております。以上です。

○座長 ありがとうございます。それでは。

△都民委員 武蔵村山市から来ています〇〇といいます。一人だけなんです。第5期の公募みたら、おばあちゃんに「お前さん、行ってこい」って言われて、来てみたら僕一人だった。これマズイなと思った。次期はともかく増えたらいいなと思ってはいますけど。実は私この空堀川。柳瀬川のグループがあつて色々な議論しているのは知つてたんですけども、ここで空堀川についてこんな議論してるっていうのは、実は来てみて知つて、すごいことやつてたんだなと。しかもそれ5期ですからね。その前があつたんですよ。その前は、何を議論したかっていうと、それは恐らくかなり色々なことを議論したと思つて、ちょうどその頃は1期、2期、3期やつて私は武蔵村山で都市計画のまちづくり条例をつくるにはどうするかみたいな、そういうことで市民として発言してたんです。その時に言つたんですけども、川のことは何も議論してないじゃないかと、この中で、村山でまちづくりの条例つくるときに、まちをどうするかで議論するとき、川をどう変えるかってことが一つも議論にならないんです。ならなかつたんです。ここに来たら、議論してるから、やっぱりこれはすごいやと。私は、これから考えるとき、川は川だけ考えたら駄目だと。町も町だけ考えて川を考えないのは駄目だと。とにかく行政の縦割りっていうのは非常に問題を難しくしてるんだけど、それをなんとか改善していく、交流していくかして、問題の解決になる情報をつかむ必要がある。空堀川にも、村山では、ですよ、空堀川も流れてますね。大田トンネル。そこからずっと、川筋に狭山丘陵から水が流れてくる。支川って言うのかな。支流って言うんですね。名前がないんですよ、その川。僕は聞くんですよ、じいさんばあさん捕まえてね。「あの川何て言うんだ？」「川？名前なんか無いよ」っていうんですね。だけど、ちよろちよろと雨が降ると水が流れていくわけ、ちゃんとね。でもあの川は狭山丘陵がもっと水を貯めこむ力、保水能力が豊かであれば、年中、川が水が流れてる川になつてるはずだ。それはそう。何故そういうかという、私はホテルを飼つてるんです、狭山丘陵の脇に。で、

飛ぶようになったんです。そうしたら人が集まるわけです。そうしたら、町のじいさんばあさん、「昔はね、何言ってるの。こんなもんじゃなかった。もっとホテルはいっぱいいたんですよ。」って話をするんです。それは水が、狭山丘陵からちょろちょろと流れてくるのが沢山あったからなんです。谷戸って言って、谷が、それが全部ホテルの棲み家だったらいいんです。私は後から来た人間だから知らないけど、「もうね、うちの部屋にまで、蚊帳の中にまでホテルが来て、どうのこうの」って自慢話をするんだけど、そんなこと言ったって何もいないじゃないですかと。そうなるっちゃっているっていうのは、元へ戻すためにはやはり川は川だけ考えているんじゃないくて、全体の自然を、自然らしくするという行政活動っていうのが、それは市民の力も含めてなきゃいけないんじゃないかという風に思っています。そのようなことで何か仕事が出来ればいいなと思います。狭山丘陵は、公園管理部というのは、また別にある、東京都は。北部なんとかって言って、色々な仕事をやるんです。そこが担当して狭山丘陵の開発とかやってるわけで、全然話が違うんです。両方出てるんですけど、なかなか自然らしくするには。行政が入ると、まあ入らざるを得ないんだけど、なんか縦割りみたいになって、片方は片方だけ、こっちはこっただけで、「どうする？そのつながりは？」ってなった時に、「難しいですね」みたいなことになるのがどうも残念で仕方がないと思います。一番身近な問題としては、川に関わる問題としては、雨水浸透柵。これは、川の問題として扱われてないですね。行政は、村山では、道路管理とか、なんか変なところがやるんですよ。道路に溜まった雨水をどうしたら良いかっていうのが、雨水浸透柵のことをやっているらしい。あれをまとめて川に流すんでしょとかか言われてびっくりしたんですけども。そういうことを、今後少し風穴空けて行って、川の水が自然に増えるような、自然に増える自然にするということが、今後考える、川のことを考えるポイントじゃないかなという風に思っています。以上です。

○座長 どうもありがとうございます。これで行政委員を除きますと皆さん、ご意見頂けたと思います。次、行政委員の中でも市さんから。

○行政委員 清瀬市の建設課から来た〇〇と申します。長い間ありがとうございます。最近、市の立場として考えますに、ずっと川を現場として様々な、いわゆる事業がここ数年、活発に活動がなってきたかなという風に感じてるんですね。清瀬市においては、柳瀬川が約4キロにわたって、所沢市と接しているんですけども、ここで先ほどちょっと委員の方からあった川祭りというイベントが過去2回ほど、まだ新しいんですけども、非常に活発な中で、行われている。こういう川を知るといような意味では非常に関心が高まってまして、参加される方々も非常に喜んでいて。確かに、そういうイベントもあり、かたや今、先ほど座長の方から話あった合流点の話ですね、空堀と柳瀬川の合流点。そうすると、それは治水っていう考え方もあって、また自然環境という考え方もある。非常にそういう現実的な話もかたやある。そういう整備とイベントというのは二つともやっていると、それによってその考えに関しては、活発なそういった事業がここ数年展開しているんだなっていう。私も建設の前は緑に関わってまして、そういうより自然の団体の方々とのお話しの中で、そちらの自然環境の大切さも分かるし、また今、建設という立場では、集中豪雨ですね、中里っていう清瀬にあるんですけども、一時間に70ミリを超えるような、昨年雨が降りまして、そういった川の安全性、これをうまく調整していかなくちゃいけないだろうということで、こういった流域連絡会というのが非常に今後の重要なカギとなっていくだろうと。ちょっと話長くなりましたけども、そんなことを感じました。どうもありがとうございます。

○行政委員 同じく清瀬市の環境課長の〇〇と申します。私、途中からこの会に参加させていただいたんですけど、先ほど、〇〇課長からも話ありましたが、柳瀬川と空堀川がちょうど清瀬には接して流れてるわけです。これは、市にとってみると、本当

に川ってというのは一つの財産だと思うんです。でも、やっぱり河川の周りには子供たちが遊んで、またお年寄りがそこでくつろいで、そんな場所だと思うんです。特に空堀川では20年前と今では非常に川の周りが変わったなってすごく感じます。昔はやっぱりフェンスでおおわれていてなかなか近づけない。でも、今は、部分部分では非常に川に近づけるし、子供たちも遊べて、色々な学習、勉強していけると思うんです。私、環境課長という立場で言えば、やはり河川というのは、色々なゴミの問題だとか、そういうものも絡んできます。そんな中で清瀬市環境フェアというものを開催しているわけですけども、そんな中で、今日、いらしてる〇〇さんを始め、そういう川づくりの会の皆さん、またボランティアの皆さんが非常に河川の掃除またゴミ拾い等をやりながら非常にこの川をきれいにしているなと思います。また、その川には、例えばちょっとしたセミカメラマンのような人たちがいっぱい来て、カワセミの写真を撮ってみたり、すごく鳥も色々な種類がいますから、そういう写真をいっぱい撮って、それが環境フェアを通じて、子供たちの、例えば環境博物館。学校にある環境博物館の中でそういう鳥の絵が子供たちの学習につながっていくということでは、大きく環境と一つづりですけども、河川っていうのは本当に市の宝物だなと。そういう一つ一つの今日ここにいらっしゃる皆さんのそういう活発なご意見がちょっとずつでも形になって、空堀川の上流から下流まで形になって表れてきているんだなという風を感じておりますので、まだまだ勉強不足ですけども、これからも皆さん一緒になって話を進めながら、やっていきたいと思えます。

○行政委員 東村山市都市環境部道路課長、〇〇です。道路課ってことですが、先ほど管理ということでも、道路の管理をしますが、河川も全て公共施設の川と道は道路課の方で管理しております。昔で言えば、管理課っていう所だったんです。そういった意味では日常の業務でさせていただいてるんですが、東村山市には水路から河川という類のものが、東京都さんが管理している空堀川と柳瀬川を含めまして、約7川、河川の川ということで7川ほど。ご承知のように空堀川は、東村山市の中央、東西を横切るといって流れていまして、清瀬で柳瀬川と合流しているんですが、柳瀬川の上流一部、所沢からの合流部で、ちょうど柳瀬橋って所あるんですが、そこで市が管理する準用河川の北川と柳瀬川の合流部がありまして、まあ所沢との境を流れているという川があります。こちらの川につきましては、市が管理する河川に比べて比較的断面を大きく、空堀川については改修計画が済んでまして、暫定、将来は50ミリということで計画できてるんですが、今現状能力の暫定という形のそういう器があって、以前は空堀川も雨が降ると浸水被害、氾濫等あったんですが、もうそういった心配は無くなって安心しているところです。ただ、それ以外の5つの河川というか、水路につきましては、南側は小平霊園の所に出水川。空堀川は水が枯れる川なんです、いづるみずと書いて出水分水という、ちょっとアンバランスな川が、ちっちゃな河川があるんですが、これはまあ普通河川。それと、ちょっと北上した所に、野火止用水があります。これは今まで東京都さんが管理していたんですが、市の方に移管されて、東村山市の方で管理する。一部小平市さんと南北境にして、南にある小平市さんと北側で東村山市と川の真中で管理している。あと、前川といった、前川は先日お話しましたように貯水池からのダム工事の時の余水吐のためにできた水路ということですが、北川についてはやはりこれも貯水池から来てるんですが、これを準用河川に位置づけして、整備計画が一応、一応ですね、ひと段落したところです。器的には50メートル、50ミリ対応でやっていますけれども、暫定30ミリの雨量、ということで、所々に落差工を設けて、30ミリ以上の雨量を流せないような形でやっております。先ほど、河川に関して、まちづくりに関しては、やっぱり川も考えなきゃ駄目だというお話ありましたけれども、やはり今ゲリラ豪雨とかそういった浸水対策っていうだけの川ではなく、そういうのは一年に何回来るかかって言ったらそんな数は来ないんですが、一回でも来たことによって内水被害って大変な被害にあう。市民の生命や財産、被害を及ぼしている

んですが、それ以外については、今後川づくりっていうか整備に進むには、親水的に河川を有効に活用して普段は親水護岸とかそういった公園みたいな形で市民が水に親しんで楽しめるそういった公園も考えていかなきゃいけないのかなと考えています。前置き長くなりましたけれども、あまり参加できないんですけども、今後とも行政の一員として頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

○座長 どうもありがとうございました。では〇〇さん。

○行政委員 東大和市の土木課長をしております〇〇と申します。私はちょうど4期、5期ということで2期ほどこちらに委員として参加させて頂いております。東大和市の場合は、空堀川の整備率としまして約6割、6割強くらいですかね、が終わっております。ただ、まだ上流側の部分が結構未整備ということで、残っている所がございます。ただ、整備が逆にこれからということが幸いしているのか、東京都さんの方で空堀川の整備計画は計画して頂いておりますが、一部親水護岸の部分も、高木橋の少し下流側で出来ましたし、今後も第4期の時に検討しました芝中の調節池、ここも今後数年後くらいには整備に入っていくんじゃないかなということで、こういう流域連絡会の成果というんですかね、そういうものも少しずつ東京都さんの方で設計の中に反映されて、今までとは下流の東村山さんですとか清瀬さんの方とは違った形で東大和ではちょっと整備が展開されているんじゃないかなという風には考えております。今後また大和が終わりますと、武蔵村山さんの方へ順々挑んでいきますので、また大和とは違った考え方というか、もっと親しむ川。確かに今、東村山さんの〇〇課長が申し上げましたが、市の方としましては、治水、治水がどうしても先行してしまうんです。治水ありきの親しむ親水ありきになってきますので、ですからその2面を持ち合わせたような整備では今後進んでいくのではないかなという風には期待しております。ですから、皆様方が各々、まあもうここで5期終わるわけですが、1期から少しずつ検討してきたものが少しずつこの辺で芽生えてきているのかなという風には、私個人的に考えております。また、今後、先ほどもありましたが、我々行政の方の委員も3月で、4月以降は異動っていうのがありますので、どうなるか分かりませんが、引き続いて委員としてまた参加して意見申し上げられる所は申し上げていって、どンドン川を良くしていきたいという風に考えております。引き続きまたよろしくお願ひします。

○座長 どうもありがとうございます。それでは、東京都の方の空堀川と柳瀬川を管理している所の管理課長の〇〇さん。

○行政委員 管理課長の〇〇と申します。あまり真面目にこの連絡会の方には出られてなかったのですが、本当に皆様のご意見を聞いて、参考になったと思うんです。管理課は、こちらの協議部隊とは違いまして、許認可とか法的管理とかあとは苦情対応とかいうところをやってございまして、日々、先ほど言った都内の北多摩管内の河川の色々な苦情と申しますか、ご意見を賜っているところです。先日も、川の中にカワセミを止まらせる木を足してほしいというご意見があつて、その後、なんであんな所に木を植えたんだというご意見がまたその後あつて、どなたかまたその木をとって、なんで取ったんだっていうまた苦情があつたり、そんなような繰り返しでございます。本当になかなか難しい所があるんですが、皆様のご意見を、大変貴重な意見をこうやって拝聴させて頂いて、今後、ちょっと業務の方に役立てていきたいなと思つている所です。非常にこのような成果をつくられたということで、皆さまの意気込みと申しますか、そういうものを感じさせて頂きました。ご苦労さまでございました。ありがとうございます。

○座長 では事務局の方から。

○行政委員 河川部の計画課の課長であります〇〇の代理で今年度何回か参加させて頂きました〇〇と申します。この連絡会参加させて頂きまして、委員の皆さま、空堀川、柳瀬川を良くしたいという非常に熱い情熱というものを感じさせて頂きましたし、また、委員の方の報告等から多くの事を学ばせて頂きまして、非常に私としても良い勉強をさせて頂きただいたと思っております。今期では草木木本の管理のルールですとか、御成橋周辺の整備計画ですとかを立てることができましたので、また来期以降有意義な議論をして一つの方向の事を実現してまた実効性の高いものにしていただければいいかなと思っております。また来期以降よろしくお願い致します。以上です。

○座長 今、話にありました〇〇くんは今年度東京都に入った一年生です。では〇〇さん。

・事務局 事務局をやらせて頂きました〇〇でございます。色々書類とか、資料でご迷惑をかけたかと思えますけど、先ほどは行政と市民の方を巻き込んでというお話がありまして、地元で広範な活発な活動をされてる方がいらっしゃいますので、そういう時に是非この資料を使いたいというようなことがあれば、気軽に声をかけてください。コピーしたりとか、資料お渡しできると思っておりますので、是非遠慮なさらないで、声をかけてください。それが逆に言えば、そういう資料を使って頂ければ、川のことを皆さんに広く伝わるわけですから、是非遠慮なさらずにお願いしたいと思えます。それから、こういう会議があって、どうしても都合で来れなかった場合があると思うんですけども、資料はその都度、その次の日郵送で送らせて頂いてますんで、絶対途切れないようにしてますから、その辺はご心配なさらないで、どうしても都合が悪くて、お休みされる時は、こちらでちょっとチェックしてますので、次の日に資料は必ず郵送してしますので、ご心配なさらないように、是非そういう事をお願いしたいと思えます。どうもご苦労様でした。

△都民委員 資料って、今までまとまったやつ、紙にまとまったやつあるでしょ？あれって、図書館に置いてあるんだよね？各市の地域の図書館に置いてあるよね？

・事務局 置いてないです。

△都民委員 合本して図書館に置けば良いんじゃないの？

・事務局 結構大変なんですよ。分厚くなっちゃって。

△都民委員 厚くなりすぎ？では分冊にしておけば？

・事務局 出来たら、置いてもらう資料を持ちまわりしていただければいいかな。

△都民委員 いやもったいないですよ。図書館に置いとけば。学校の先生に言って、リファレンスして行って、これ見てごらんよって子どもに行かせれば良いので。

・事務局 そういう時は、事務局で。

△都民委員 だって遠いのです。中央線が邪魔しています。

・事務局 PRはどうするか。

○座長 じゃあ、事務局のもう一人の方。

・事務局 私、今回初めてだったんで、前回までこんな内容でまとまったのかは分からな

いんですけども、今期はかなり具体的な成果物ができたと思うんです。御成橋の整備計画ですね、いっぺんにというのはちょっと無理だと思います。出来る範囲で出来るところから何年かかるか分からないんですけども徐々にやっていくように、なんとか知恵を絞って、予算確保の方、やっていきたいと思います。そして、あと樹木の管理ルール。こちら、〇〇さんが色々作ってくれたんですけども、まだちょっと抽象的な部分もあると思いますので、6期でこれをより具体化して誰が見ても分かりやすいようなより具体化したちょっとルールみたいなものにしていきたいなと思っています。どうも2年間、ありがとうございました。

○座長 これで皆さん、今までのお話、感想聞かれて、もう一言ございますか。

△都民委員 ちょっと質問したい。

○座長 どうぞ。

△都民委員 川ともう一つ用水っていうのがあるんですね。あれは誰が管理していて、どういう風な行政措置になっているか。小川用水とか新川用水とか、砂川用水とか、玉川上水を出発点として、いっぱい江戸時代に作った農耕用の用水がたくさんあるんです。良く見ていると、雨の時には流れているけれども、いつの間にか干からびている。だけど、玉川上水は水が流れているのに、なぜここが干からびたんだろうかと、不思議に思うんです。あれは、流れている川には、なんらかの利用をしているから流れているんだろうと思うんですけど、あれは川じゃないんですよね？誰が管理しているんだろうか？

○行政委員 一般に用水、耕作系は水田耕作なんかの場合だと、耕作組合とかそういった形で管理しています。だから水利権があるということです。

△都民委員 水田がなくなってから？

○行政委員 なくてもですね、こういったものが整備されず、残ってて実際にはそういった権利のある人たちが、何十人といった形であるんです。そういうものは整備されないで、今日残っているというのがあります。あと、多摩川上水だと飲料用ですから水道ということで、立川の方にも柴崎分水とか色々ありますけど、そういったのは日野市なんかは水道課ってのがあってそういうの管理してると思うんですけど、立川なんかはちょっとどういうあれがあるか分からないんですが、東村山も水路は水路、河川は河川という形で私の方で管理しているっていうのも、何もしない、ほっとくだけなんですけども、一応何かあれば道路課の方で、そういったものをやります。

○座長 基本的には水利組合というのがあって、利用者、その水を今まで利用してた、その農業用水とかなんかとして使ってた人たちが組合をつくって、その組合が管理しているってことになってます。ですから、我々用水から川に水を分けてもらえないかっていっても、水利組合って人が「うん」て言わなければ、ダメなんです。

△都民委員 でも面白い話ですよ。昔は水が必要だから、個人個人やら、一生懸命、人足を集めて高い所から低い所にすごい工法で玉川上水作ったわけですよ。野火止用水。それが後世、たったの200年経ってないですよ。それを組合作った所で利害関係があるから調整してどうたらこうたら上手くいかないっていう。まあなんか不思議でしょうがない。

△団体委員 玉川上水は、清流復活で環境局が多摩川の分水を最近になって分けたんです。それは、水利権を復活させた。水利権を。

- △都民委員 清流復活事業で、分けてもらって、下流の所を開けたんです。
- △団体委員 ごく最近環境局が、数年前かな。清流復活ってことで、あそこのかつて流れてた夏なんか水が枯れちゃう。そういう過去の水利権を復活させたんです。
- 座長 玉川上水は分水から先の話。あれは、下水道局の処理水を流してるだけです。
- △団体委員 違うよ。今、玉川上水の清流復活でね、あの多摩川の水を最近復活させたっていうんです。
- △都民委員 その最近って、2, 3年前？
- △団体委員 もう4, 5年前。
- △都民委員 確認しましょう。問題が大きいですね、それは。もし、あれだったらラッキーです。
- △団体委員 ここに、多摩環境事務所の人が常時、委員として来てくれたら。
- ・事務局 多摩環境事務所の委員の方も、今日お見えになってないですけど、何回か見えます。
- 行政委員 たぶん、多摩丘陵の多摩湖の水の出水みたいなのが水路で入っていて、それが空堀川に直接入っているから、奈良橋川に流れ込んでる水路が多いと思うんです。それは、水路、堀って言われる所は一つの管理。各市町村で管理してるわけです。ですから、前川っていうのもうちの方にあるんですが、前川も多分、多摩湖の水の出水がこう集まって、あと二つ池って公園から出た水が川になって最終的には、東村山さんの方にずっと流れていくんですが、それも市で管理してる。
- 行政委員 もともとは狭山丘陵とかああいう所が、湧き水があって、もう自然に水路っていう形で流れてた。平成12年に、もともとは国が全部、あの川っていうのは、国が持ってるんです。国の持ち物なんです。排水の時期とか、池とかっていうのは国が持ってたんですが、確か平成12年の地方分権一括法っていうことで、市町村に国から全部、譲与されたんです。今までが国の持ち物で国が管理していましたが、無償で各市町村に譲与しますから、これから各市町村で管理して下さい。当然東村山なんかもずっと大和から、村山の方から狭山丘陵とずっとありますけど、あそこのおちょうど山裾の所には湧き水があって、自然に水が流れる道があるんです。貯水池の南側なんかも、排水の時期と、今水は流れてないけども、もともとは水路だったという所があるんです。そういうのは、もともとは国のものだったけども、今は市が国から譲与を受けて、市町村が国から譲与を受けて管理している。
- 座長 そういう意味では、今、水路と用水っていうのは全然別物の話なんですよ。いわゆる水路っていうと、用水もみんな同じじゃないかなと思うんですけども、用水っていうのと水路っていうのは話が全然違う。
- △都民委員 昔は農業で使ってたのを使わなくなったんだから川に流せばいいんじゃないかなか。
- 座長 用水の話です。用水っていうのは、水利組合が持っているよって話で、今言われたのは、水路。

○行政委員 赤道、青道ってやつで、赤道ってのは昔の里道である。道路ですよ。けもの道からずっとこう。青道っていうのがそういった、水路、水道の。ほんのもう、このくらいの1mもないようなそういうもので、そういう水路。そういうものを、よく青道っていうんです。

△団体委員 東村山市の〇〇さんからすごいこと聞いちゃったんですけど、雨水を貯留する施設をお作りになってらっしゃった？

△都民委員 村山はやってないですよ。やってほしいと盛んに言ってるんですけど。

△団体委員 そうですか。やってください、ということなんですね。各市で。すごい。

△都民委員 お金を見てくれって、盛んに言ってるんですよ。

△団体委員 ものすごい予算がかかるんでしょうけども、そこ一步東村山さんが進めたのかなと思って、今すごいな、と思って、質問させて頂いたんですけど。

△都民委員 道路を作る計画。拡張して整備しますよね。そうすると雨水浸透枡っていうのが所々あるわけです。あれなんだって言ったら、道路に溜まった水を集めて川へ流すためのチャンネルだって。浸透枡ではないじゃないかって言ったんですよ。「そうですね。」なんてすまされた。これじゃあね、川はちっとも良くならない。立川飛行場あたりまで来てますから、そういう水の雨水の排水施設っていうのは、浸透枡にはなっていない。

△団体委員 そうしますとね。治水もものすごくかかってきますし、一度貯留してっていうと空堀はもともと水源が乏しいですから、どのみち一生懸命水循環って話し合っても、どこからか物理的にお金を出して、どこからかお水を頂かなければ、空堀川はいくら話し合っても、一步前へ進まないんじゃないかと思うんです。でも、両市がそれぞれ一度雨水をそのような施設をもって、よく〇〇さんが言うんですけど、雨水を大きな貯留池を作って地下に、で、少しずつ水を流して下されば空堀川も、そりゃあ夢じゃないと思って、〇〇さんの話を大変うれしく聞いたんですけど、そういうことですか。ありがとうございました。

△都民委員 かたくりの湯のあそこの温泉施設のお水は循環させてどこへ流してるんですか？循環ていうか、何もしないで下水に。そのまま下水ですね。直で流しちゃってるんですか？

△都民委員 直では良くない。一応きちんと。

△都民委員 で、下水へ？

△都民委員 だいたい僕はあの温泉気に入らないんです。あれは、川をだめにしちゃったに違いないという風に思ってるんですけどね。東京都の温泉を掘りたいと申請すると、環境的にどう影響ありますかって審議会がかけるんです。だけど、全部パス、OK なっちゃうんです。それは、何を審議しているのか怪しいと思うんです。影響が、空堀川とか、浸みていく水が途中で温泉の方へひっばっちゃって、いつの間にか水枯れの原因になってるなんてことは非常に間接的に見える現象だから、そういう審議会では議論の対象にならないんじゃないかと睨んでるんです。もう、あんな1000m単位ですよ、あれ掘ってるの。そんな井戸掘っちゃったら、影響が出ないわけじゃないですか。地下水の水脈を壊しちゃって。狭山丘陵の脇に私はホテル飼って

る所は、2m 掘ったら水出ますよ。だけど、温泉の方は 1000m 掘っちゃっているわけだから。そんなことが影響がないわけがない。空堀川の上流ですよ、あの温泉がある所は。まさに上流です。

△団体委員 昔、この流域連絡会で〇〇さんという人がいた時に、上流を見に行って、あその施設を全部見せてもらって、どんなポンプでどのくらい掘ってるか、そして余った水があるんじゃないか。それを空堀川へ流してくれと。そういう見学したことあるんです。あその施設の人に聞いたらば、半分は地下からで、あとは水道水で混合して使っている。地下から上げてきた水については、温度低いし、それはやめたら良いんじゃない？という話をしたんですけど、武蔵村山さんの委員の方からはダメだって話があって、だから今、〇〇さんが言われたように、あその水は全部、使った水は下水に流しちゃうんだから、浄化して上から一番流してみれば、一番きれいな水になって、流してくれれば一番良いんだろうけども。そういう話はしたんですよ。で、現場来て、あのお風呂屋さん、全部見せてもらった。そういうことは、流域連絡会でやっているんです。

△都民委員 改めてみんなで行って、温泉の中で、500 ミリのペットボトルに何回かって、試して来て。

△団体委員 でも、それを言われるんでしたら森永さんが 7000 トン掘って、4000 トン空堀へくださってるんですけど、その残りの 3000 トンも是非に空堀へってお願いに行きたいですよ。それが行政さんに言いに行っただけです。下水に流したらもったいないですよ。

△都民委員 かたくりの湯の上流の方に随分、すぐかたくりの湯のちょっと上流の方に池みたいのがあって、そこに湧水みたいのがかなり上の方から流れ込んでいて、あそこで魚釣りができるんですよ。その水はどこへ行っちゃっているんです？

△都民委員 あれが源流。

△都民委員 水の量はそんなに多くないです。貯めるからあれだけの量になったんで、あれから出てくる水の量ってすごく少ないです。あの池の割には少ないなって感じです。

△団体委員 そういう、かたくりの湯、温泉もそうですけど、森永さんもそうですけど、そのためには相当行政さんも努力して下さらないと、下水の代金というのは決しておろそかにできない、それだけじゃないから、かなりの決断をして頂かなければ、空堀へって、なかなか大きな声で言えないんですけど、でもでも、もしお許しを頂きたいんだったら少しづつでもそれを空堀へ流して頂いたらありがたいですね。

△団体委員 ちょっと、よろしいですか。下水道も絡めて水循環どうするかって話だと思っんです。だから大きな水循環の観点からどうするかって、ここの議論で良いかどうか分かりませんが、そういう意味では、私が常々思っているのは、要するに下水道の社会インフラとしての整備の仕方をどうするか。これ、今、結局、空堀川の流域ですと、雨水については、清瀬まで、持ってっちゃいますよね。水再生センターが。大きな管渠、その管というのは流域で何にも使われてない。今、〇〇さんが言ったように。要するに水資源として何も使われてないんです。ただそういう意味では、大規模集中型の浄水施設というのは、意味はあるとは思っんですけど、水循環の立場から言うと、できるだけ分散、小規模分散型にして、できるだけ早く環境に出すと。それが河川に。それが本来は一番有効に、水が、水を資源として使う場合はそれがいいのかなという感じは受けます。ですから、この社会インフラの考え方を、がらっと変えないとダメなので、ここの議論じゃないとは思っんですけど。ただ空堀

川を考えると、そういう所までいかないとなかなか水の手当てが難しいかなというの、ちょっと私は個人的には思っています。だから、要するに合併浄化槽の高級合併浄化槽ですね。質の高い。それを使えばある程度はそういう小規模分散型のものに、やれなくはない。ただそこは技術的にもちょっと解決しなくちゃいけない部分がありますから、難しいですけど。今、それとあらゆる水路、用水と上手く使って、どう水手当てをしていくか。こういうことなんです。ですから水循環、総合治水って言っているのも、そういう事も含めて、ですから雨水の貯留施設。ただ、それ今の場合、大きい所で作っても早く出さないといかんのですね、河川に。そうすると、今の水循環、空堀川が求めている所からするとちょっと違うんですよ。治水のためにいったん溜めたやつを、割と早い6時間とかそういう単位でどっと出さなきゃいかんということと、水質が悪くなりますから雨水集めたら貯留槽が。その水質浄化をどうするかっていう問題があるんで。一気に貯留槽さえ作ればという、それをまた河川に出せばいいという、そう都合よく、今は出来ていないです。だからそういったことも含めて、水循環と総合治水セットにしなが、あらゆるチャネルをどう活かして、水の手当てをするか、ということだと思います。やっぱり、ここだけじゃちょっと難しいのかなと。だからそういう議論をする場が、本当は必要だってことが、私、総合治水っていう言葉を言うたびに、そのことを、実は裏にそういう部分があるってことを言いながら申し上げているんですけど。ただ、この形ではなかなか限界があるかなっていう、そういう歯がゆさを感じてはいるんですけども。ちょっとそんな話が出ましたので触れました。

○座長 色々、ご意見がありましたけど、とりあえず今回の第5期の流連のまとめっていうことですけど、何か最後に言うておきたいっていう話があれば。

△団体委員 特にありませんけど、これで今度6期に繋げていければ相当な成果が期待できるのかなと、そのように思っています。それからさっき私、玉川上水の清流復活について、それは野火止と違うかって言われたんですけども、これは、水をみんな欲しいってことで、環境局に行って環境課長に、水を管理している課長さんに直接聞いた話で、それで苦労話で。これは、〇〇さんと一緒に、私が行ってるから、聞いてると思うんですけど、苦労して玉川上水の水が枯れてることについて、多摩川の方から分水してもらったと、そういう苦労話を聞いたので、そんな過去の話じゃない。だから、これ、それ違うよって、ここ嘘ついたら困りますから、こちらの方でも調べて頂いて、私の方も確実にしてきますから、やっぱり、そういうのは共通の認識として持ってないと、それは間違ったこと言ったらまずいし、これは確認していきたいなど。そういう風に思っています。

△団体委員 その時すごくうれしくて、なら空堀川にもっと水を、と。

△都民委員 そのおこぼれを野火止用水のホタルの養殖に。小川用水とかが、全部繋がっていて、水量調節をかけています。

△都民委員 さっきも、言ったことではあるのですけども、川の水っていうのは、温泉掘った水を使うとか、そういうのも総合的な循環を考える一つなんだけど、どうしても私は手をつけてほしいと思うのは、東京都の公園管理課と連絡をとって狭山丘陵の保水能力を高める。「昔は、あそこも水が出て、ここも水が出たよ」ってみんな言うんですよ。それが全然、空になっちゃってる。それいったいどうしてなのかっていうことを、川を考える立場から公園管理課に話をする機会が作れんものだろうか。ああいう山も、杉ばかり植えるものだから山がだめになっちゃったっていうのがよくありますよね。それと同じような事が、やっぱり狭山丘陵起きているんじゃないだろうか。セイタカアワダチソウが、だあっとあつて、大変なんです。高校生がかりだされて、あれを全部引っこ抜くわけ。引っこ抜いたってすぐまた生えてき

やうんだから。そんなやり取りを狭山丘陵ではやっているわけです。だけど、もうちょっと別のことをちゃんと出来なきゃいけないんじゃないかなという気がするんです。それはやはり、我々は川なら川で良いから川の立場から、あそこの山をなんとかありませんかという働きかけというのがあっていいんじゃないかな。

△団体委員 非常に大事なところだと思っているんです。これは、水循環・総合治水にも関わ
るわけですがね、水源林ですよ、言ってみれば。だから、非常に狭山丘陵に乏しい
水源林ではあるんです。空堀川にとっても、残堀川にとっても、柳瀬川にとつ
ても、野川にとつてもね。狭山丘陵を水源とする川、いくつもあるけど、やっぱり非
常に乏しいんです。そこが、さらに開発が進んで、保水力が落ちているという、こ
れ、きちっとデータでは私も言えませんが、おそらく間違いなくそういうことだ
と思います。ですから、昔は谷戸に棚田があったわけですよ。棚田があってそこ
に水が出て来て、そこの保水能力があってそれでうまく、空堀川に流れ込んでいた、
こういう事だと思えますけど。少なくとも水田が殆ど無くなって、皆開発されて住
宅になったり、施設になったり、そこから、山裾の方もおそらく〇〇さんが懸念し
ているように、保水力が乏しくなっていることじゃないかなと。ですから、川
の連続の果てに行きつくのは水源林まで行くと思うんですよ。だからまさしく、
これから東大和の工事があって、武蔵村山が入って、そこから先ってことを考えて
いくと、そして今の川づくりがみんな大きな断面の川づくりですから、水の乏し
さがもっとはつきりしてくるんです。平時の水の流れがものすごく細いという。で、
大雨降ると、どつとという格好で、その落差が非常に強調される、そういう川づく
りになってるわけです。だからそれを総合治水という観点からすると、川の負担が
大きいから、そうせざるを得ないということを再三申し上げてるわけですが。し
かし、現実には、そこからすぐに、その考え方から、変えるわけにもいきませんから。
しかし、できるだけ今の、水源林まで含めた水の手当てはどうしていくかってとこ
まで、やっぱり川の立場に、考えていかないと解決にならないかなと。

△都民委員 東京都の水道局が全面的にバックアップしてくれるのではないですか？狭山丘陵
だって、僕らが子供の頃は、随分何回も捕まったけど、今だって柵をして、怖い
ですよ、やっぱり。貯水池。それからその周りの水源地も管理はものすごくして
ますし、あと、ゆくゆくは防犯カメラつけるんでしょ？それしかないのではないで
すか？ただ、もう裾の所はかなり開発進んじゃってますからね。

○座長 ではよろしいですか？ということで、第5期の流域連絡会はこれで終了させて頂
きたいと思えます。本当、長い間どうもご苦勞様でした。

※マークは以下の内容を示しています。

- △：団体委員・都民委員
- ：座長・行政委員
- ・：事務局